

研究主題

目標や課題をもち、自分の学びを見つめられる授業づくり

～「学習の見通し」と「振り返り」の場を工夫して～

1 主題設定の理由

昨年度は、児童のつまずきを把握し、そのつまずきを解消する手立てとしてICTを活用することで、研究主題である『「分かった！」が広がる授業づくり～つまずきを解消するICTの活用を通して～』を目指して、実践に取り組んだ。

実践では、様々なICTの活用方法が児童のつまずきの解消の手立てとして有効だということが分かった。その中でも、汎用性がある活用方法は「情報共有」「資料提示・検索」であることが分かった。

しかし、多くの児童がICTの活用を通して、つまずきを解消することができた反面、つまずきを解消することができなかった児童も少なからずおり、課題が残った。その原因として、つまずきを「学級全体」で捉えたことで、児童一人一人の異なるつまずきを捉え切れなかったことや、教師が想定したつまずきと児童が感じているつまずきや課題がずれてしまっていたことが考えられる。

そこで、本年度は、研究主題を「目標や課題をもち、自分の学びを見つめられる授業づくり～学習の見通しと振り返りを通して～」とし、児童自身が自分の課題やつまずき（頑張りどころ）を捉え、それを意識しながら学習に取り組むことができるようにする。また、学習の振り返りを行い、学んだことや自分自身の取り組み方を認識したり、新たな目標や課題を見付けたりすることができるようにする。そうすることで、児童が主体的に学習に取り組むことができる授業づくりを目指していく。

【目標や課題をもち、自分の学びを見つめられる授業づくりを目指す一単元の学習の流れ】

| | ①学習の見通しをもつ | ②学習に取り組む (めあて→自力・協働→まとめ→振り返り) | ③学びや取り組みを振り返る |
|----------|--|---|---|
| 授業づくりの工夫 | <ul style="list-style-type: none">導入の工夫目標の提示 (身に付ける資質・能力)学習の流れに対する理解児童自身の課題設定学習計画の作成 | <ul style="list-style-type: none">ICT機器の活用学習人数の設定(個人・ペア・グループなど)個々の能力に合わせた進捗の設定とその対応進捗状況の把握つまずきへの支援学習環境や教具の充実 | <ul style="list-style-type: none">導入時に共有した目標や課題に対応する振り返り類似単元における課題設定 |

※ 今年度においては、①と③を中心とし、公開授業を行う。

2 本校における共通認識

(1) 目標と課題

目標…学習後に到達する姿や成果（物）

※ 児童が理解できる範囲で、明確かつ指導事項に触れているものが好ましい

例：「パンフレットを作ろう」△ 「読み手に分かりやすく伝わるパンフレットを作ろう」○

課題…その目標を達成するためにすべき事柄

※ 読み手に分かりやすいパンフレットにするための課題例

図や写真の活用 興味をもたせる見出しの表現の工夫 自分なりの考えや理由を述べる
レイアウトの工夫 インタビューや資料集めで根拠を明確にする など

※ こうした「課題」を児童自身が見出したり、選択したりしながら、自分の学びを創りあげていくことが望ましい。

「目標をもつ」＝何をする学習なのか、何を目指しているのかを全員が理解する

「課題をもつ」＝「そのために何をすべきか」を発達段階に応じた方法で設定する

「教科書に書いてあるから○○するよ」や「今日は□□をします」といったような声掛けは極力避け、児童の声を学習の流れにうまく取り込めるようにしたい。そのためには、児童の興味や関心を高める導入、問い掛け、教材提示などが重要になる。「与えられ、言われた学習」という印象を児童にできるだけ与えない授業づくりを心掛ける。

(2) 一授業時間の流れ

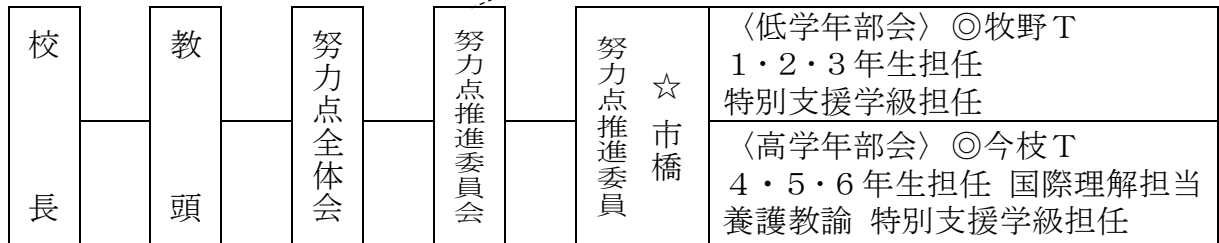
| | |
|-------|--|
| めあて | 一授業時間に達成したり、身に付けたり、取り組んだりする事柄を、児童の実態の理解度に合わせて提示する。単元の目標を達成するための課題として捉えてよい。単元導入時の「見通しをもとう」「課題を考えよう」や単元末の「振り返ろう」などのように課題そのものではないめあてもある。 (活動型：「～しよう」 疑問型：「～はどうすればよい？」) |
| 自力・協働 | 学習内容に合わせ、「どちらかの形で」「時間配分を決めて」「繰り返しながら」学習を展開する。どの学習展開においても学級全体で共有する時間を設けるのが好ましい。 |
| まとめ | めあてと直結する内容で教師が提示したり、児童から引き出したり、個々の学びに合わせて個々で考えさせたりする。(活動型めあての場合、活動を通して見出すことができた学びやポイントなどについてまとめ、疑問型めあての場合、その疑問に対する答えについてまとめるとよい。) |
| 振り返り | 別紙参照 |

3 検証の方法

一単元の学習の流れ（「①学習の見通しをもつ」「②学習に取り組む」「③学びや取り組みを振り返る」）の各段階における児童の記述・様子・成果物から検証を行う。

4 研究の計画

(1) 研究組織



(2) 公開授業について

- 一人一人の教師が研究を主体的に進めることができるように、年間を通して（12月までに）一人1回公開授業を行う。公開授業以外にも、年間を通して継続的に実践を行い、子どもの変容をつかめるようにする。
- 授業実践は、「単元、指導計画、本時の目標、準備、指導過程」などを記入した簡潔な指導案を準備し、各部会で事前検討会を開き、手立てについて検討する。また、実践後に事後検討会を開き、手立ての効果や課題を振り返る。
- 授業実践の内容は、導入場面の手立てか振り返りの手立てのどちらか一方、または両方に重点を置いたものとして行う。
- 各部会で、1学期と2学期に分かれて授業公開を行う。

(3) その他

- 1学期に、「ナゴヤ学びのコンパス」の方針に沿ったテーマで現職教育を行い、各学習段階の取り組み方や注意点などについて学ぶ。
- 公開授業の様子について報告書にまとめ、1学期の実践者は中間報告会で、2学期の実践者は最終報告会で、成果と課題について発表し、共有する。